



ヤマ予備だけで、これだけ取れる!!

択一式 65点
選択式 37点



高得点合格者 INTERVIEW

山川社労士予備校 合格者
前山美紀 さん

自己採点で合格ラインを十分超えていたので、合格を確信しました。
ヤマ予備カリキュラムだけで、高得点合格できると思います。

山川予備校のカリキュラムであらゆる問題に対応できる得点力が身に付きます。

まず、最初にお伝えしたいのは「ヤマ予備のカリキュラムだけで必ず合格できるので、ヤマ予備を信じて学習をやりきってほしい!」ということ。基本講座だけでなく、「答練2講座」は勿論、「直前3講座」も含め、全てをしっかりとマスターしてください。答練や直前講座では、基本講座では触れられてなかった論点がたくさん登場してきます。それらも手を抜かずしっかりとマスターすれば、あらゆる問題に対応できる得点力が身に付くはず。今年度からは「月額制」サービスクリが開始されて、ヤマ予備カリキュラムの全てを、いつまでも継続的に受講できます。私の時にはなかったサービスクリなので、本当に羨ましいです。

社労士の勉強は、法律を勉強したことがない方にとっては、最初は苦戦すると思います。そのため、基本講座を受けていると、「よく分かっていない」状態のまま、先に進まないといけないことになり。でも焦らないでください。そういう時は、理解が不十分な箇所をマーキングしておいて、気にならずに進めることが大切です。学習を進めていくうちに、最初分からなかったマーキング部分が「そういうことか!」と理解できる瞬間が巡ってくるものです。

初学者 講義後に過去問を解く

解けなくて大丈夫!!

実際に問題が解けるようになるのはもっと後で良い!

講義で理解した論点の本番でどう問われるのか?を知るだけで十分

POINT

講義後の復習段階では、試験でどのように問われるか?を知る。

もっと理解が進んだ段階で、過去問を繰り返し解いてマスターする。

ヤマ予備のテキストは、条文中心にまとまっていますので、とても実戦的です。市販書籍などで、もっと分かりやすく書かれている教材もありますが、それに慣れてしまうと、過去問など実戦的な問題を解く時に、逆に難しく感じてしまい、戸惑ってしまいます。最初は少し難しくても、ヤマ予備テキストのような実戦的なテキストに慣れることをお勧めします。

私は、講義の後に過去問を解くようにしました。過去問は、初学者がすぐに解けるような問題ではないので、当然、解けない訳ですがそれでも気にする必要はありません。最初は、「講義で理解した論点の本番でどう問われるのか?」を知るだけで十分だからです。

過去問の学習は、
① 試験でどのように問われるのかを知る
② 実際に問題を解けるようになる
この2つの到達点を分けて考えてください。つまり、講義直後は①を達成していれば良く、②ができるようになるのは、もっと先で良いわけです。実戦でどう問われるか?を意識した学習を常に心がけることが、合格への近道だと考えてください。

私の学習法 過去問対策について



最初は、「講義で理解した論点の本番でどう問われるのか?」を知るだけで十分。

中上級者の方でも、インプット講義は必ず受講した方が良い。
理解が深まるだけでなく、抜け落ちている部分に気づくはず。です。

ヤマ予備講座をマスターしていかないから受からない。マスターしたら必ず受かる。得点力を上げるためには、「理解」と「暗記」の両方が必須です。「理解」に関しては、上級者でも、必ず基本講座を学習してください。理解が浅かったり、間違っていたりする部分が多々あります。「基本講座」「法改正講座」「白書講座」は2回目以降は音声だけを繰り返し聴くことで内容に集中することができ、理解がさらに深まります。私は、洗濯をしている時は「基本講座」、食事の用意の時は「法改正講座」といった具合に、家事をしながら音声だけを繰り返し聴きました。

次に「暗記」についてです。「理解」だけでできていても、本試験では得点に結びつきません。細かく、かつ正確に「暗記」してください。特に「数字の暗記」は重要です。選択式の対策については、上級者の方でも苦戦している方が多いと思います。「穴埋め講座」は選択式対策として必須です。

ヤマ予備のカリキュラムをしっかり理解し、暗記してあれば、見たことが無いような選択肢が本試験で出てきても、それは合格を左右する正解肢にはなり得ないと言っても過言ではないと思います。そんな選択肢に惑わされることなく、自信を持って正解肢を導き出すことができるようになります。